

あかつき

小田原市議会議員

加藤仁司市政報告 令和3秋号

〒256-0803 小田原市中村原400

TEL:0465-43-0628

URL/https://katochan.info/

E-mail uin39360@nifty.com

令和3年6月一般質問より

本市所縁の偉人を発掘しよう

6月の一般質問において、本市に関わりのある2氏の功績を紹介し、我々が未だ知らない本市所縁の偉人発掘をすべきであると提言しました。周知のとおり本市には二宮尊徳翁、北条五代や北原白秋をはじめ多くの偉人、著名人が存在します。既刊の書物でも紹介されている方々も多くいらっしゃいますが、諸外国の方から尊敬され感謝されてきた方々にスポットを当て、その功績を多くの市民に知ってもらいたい思いで質問をいたしました。

浅羽佐喜太郎

出身は現静岡県袋井市。明治期、東京大学医学部卒業後ドイツ留学を希望していましたが、体が弱いため環境の良い現小田原市前川（町屋）に医院を開業しました。縁あって当時フランスの植民地であったベトナムの独立運動家である「潘佩珠（ファン・ボイ・チャウ）」と知り合います。ファンはベトナムの独立を目指し「日本に学べ」と多くのベトナム留学生を日本に送り人材育成と教育を施す東遊（ドンズー）運動を展開していましたが、1907年に日本とフランスの利益と安全保障のための日仏条約が締結されると東遊運動も解散を余儀なくされ、ファンや日本にいるベトナム人学生も滞在費や帰国費もなく途方に暮れていました。そのような状況の中、ファンらに手を差し伸べたのが浅羽でありました。浅羽は当時の小学校校長の月給が18円の時代に1700円もの大金を渡し、窮状を救ったといえます。浅羽は他にも地元の校医としての貢献や、現小田原高校をはじめ地元への寄付や故郷の水害被害にも多額の義捐金を送っていたようです。ファンや地元の方々からも慕われていた浅羽ですが、ファンが故郷ベトナムに帰った翌年の1910年、享年43歳という若さで他界しました。

ベトナムから国外退去となっていたファンは、各国逃亡中に浅羽の死を知ると、危険を冒して浅羽の故郷を訪ね、地元の協力を得て、浅羽への感謝を記した大きな記念碑を建て、今も浅羽の功績を称えた式典が営まれていると伺っています。ベトナムの独立に貢献した日本人の一人としても是非覚えておきたい逸話です。

近々、浅羽医院のあった小田原市前川に実家がある作家の新井恵美子さんが浅羽佐喜太郎の書物をお出しになるようなので、待ち遠しい限りです。

廣枝音右衛門

現小田原市片浦にて出生。片浦小出身。逗子開成中学、日大予科と進み、昭和3年に陸軍入隊。軍曹にて満期除隊後、湯河原小学校教員を経て昭和5年に台湾総統府巡查。38歳で警部に昇進しましたが、戦局により総勢2千名の海軍巡查隊総指揮官として家族4人を残してマニラの守備に就くことになりました。巡查隊の任務は後方支援



でしたが、戦局はますます悪化し、いよいよ突撃命令が下されました。廣枝隊長は部下に自らの軍刀を託し、「お前達は台湾から来た者だ。お前達だけでも生きられるところまで行け。責任は日本人の俺が持つ」と言い残し拳銃自決を遂げられました。40歳の誕生日の事でした。部下の劉小隊長をはじめ海軍巡査隊の台湾青年の多くの兵士は投降し、故郷に無事帰ることができたそうです。

戦後、隊長の恩を忘れぬ部下の意志により、台湾において毎年慰霊祭が挙行されており、茨城県取手市にある廣枝隊長の墓域にはその義挙を称える顕彰碑が建てられました。小田原出身の廣枝氏も外国人から慕われ、感謝された日本人として、その名を覚えていただければ幸いです。

市長には、まだ埋もれている小田原に所縁のある偉人を探し、偉人たちが遺した歴史を本市の子供たちに伝えるべきであり、偉人録の発行を要望しました。その物語の数々を本市だけでなく、日本中に、そして世界に発信されることを願ってやみません。

実現へ！橘地域への認定こども園設置

平成22年9月一般質問において提案した橘地域への「認定こども園」が実現に向けて大きく動き出しました。その当時の前羽幼稚園児数は20名。下中幼稚園児数は50名。地元の各幼稚園を卒園し、前羽・下中両小学校に入学した児童割合は共に約50%でした。すなわち、約半数の児童は橘地域外の幼稚園や保育園を卒園して橘地域の両小学校に入学している訳です。この傾向は、既に長く続いていますが、地域コミュニティの面や高まる保育需要に応じた対策の必要性により、橘地域への幼保一元化策として「認定こども園」の設置を10年以上にわたり行政に強く働きかけてきましたが、この度、行政から地域に対して、本計画の概要が示されたところでもあります。

背景とすれば、少子化によって園児数の減少が両幼稚園も顕著であり、幼稚園の統廃合と合わせ「認定こども園」の設置を行うことから、橘地域に1つの「認定こども園」が開設されることとなります。そしてその場所は現在の下中幼稚園の敷地を予定しています。開設予定日は令和6（2024）年度としており、今年度は基本計画の策定、来年度に設計、工事に着手する予定となっています。

ちなみに下中幼稚園は定員が140名となっていますが、令和2年末現在での在園数は19名。前羽幼稚園は定員70名で在園数は10名と定員の20%にも満たない数字です。更に前羽幼稚園は海岸にも近く、台風や豪雨、高波の心配や緊急避難時には国道を越えなければ高台にも行けないという立地の関係上、現行のままでよいとは思えません。今後は認定こども園への通園に対する交通手段等について、行政とも協議を重ねる所存です。



認定こども園に変更建設予定の下中幼稚園



隣接住宅に囲まれた通路の前羽幼稚園